

諏訪市文化センター市民説明会 議事録要旨

開催日時・会場・参加人数

開催日時	令和5年7月30日(日) 17時00分から18時50分
会場	諏訪市文化センター第2集会室
参加人数	約80人

諏訪市文化センター改修について

■説明に対する質問

【発言者】

諏訪市文化センターで、コンサート・演奏会を行っている合唱団は一つもない。諏訪市では発表の場は無いという現状を認識しているか。また、文化センターのホールの音響について考えているかどうか。

文化的なものを残すべきだと思うが、下諏訪で発表している現状をどのように考えているのか。

【教育次長】

先ほどの資料8ページのところで音響調査について説明させていただいた。この結果は、芝居や講演会など音を聞かせることに適しており、音楽にもピアノを聞かせるとか、歌声を聴かせるとかなど様々なジャンルがありますが、残念ながら文化センターは、若干欠けてしまうと理解しています。

ただし、諏訪市の文化祭のコーラス祭とか、ピアノを活用していただく合唱団など市民の皆様方の発表は可能です。

少し高いレベルで音楽をされる方にとっては、文化センターホールは物足りない部分があるかと思いますが、可能な限り音響についても検討しながら、どのような改修ができるか、基本設計の中で詰めていきたいというのが現状です。

【発言者】

4ページの令和元年度のホール利用率45.8%は思っていたよりも大きい数字だった。講演会、選挙、音楽、美術、芸術に分けたときの内訳はどのような感じか。かなり利用するというのを逆に認識した上で質問したい。

まちづくりのあり方検討会が開かれて、マニフェストという中に入っているということだが、その前に、例えば、高校生など10代の方とか、いろんな人たちの声を聞いていたかどうか。

【教育次長】

ホール利用については、講習会が約28%。次に会議が約23%。展示会が約16%、講演会が約8%です。

それから二つ目のあり方検討会は、先ほどご説明したメンバーで進めてきたということで、高校生やその他団体の方々に、ご意見を聞くという目的で行っていません。

【発言者】

今の質問に関係して、私もあり方の検討委員会のメンバーを聞いた時に、これから沢山のお金をかけて改修していく・使われていくということについて、借金を払っていく子供たち、子供たちが意見を言えないかもしれないけど、せめて親御さんたちがどういった立場でこの活用を考えるか、子ども達にとってこの先はどういうふうに関わり立って行くのかというのを考えてやってほしかった。

【発言者】

説明の中にあっただのかもしれないが、去年や一昨年に、それぞれ整備に毎年お金かけていたと思う。お金をかけたら、今まで60年やってきているが、あと30年、50年大丈夫だということはあるのか。

【教育次長】

今回は大規模改修ということで進めさせていただく。改修後は概ね20年から30年ということで想定している。ただし、当然20年30年何もせず維持できるかということはない。今回の改修では20年から30年、合わせて随所で少し手を加える必要がある。

【発言者】

広域避難所について、文化センターには非常用発電機はないとのことだが、広域避難所に非常用発電機がないというのは考えられない。また、発電機を回す備蓄用の燃料が無いので、地震のときにはどういう避難所になるのか。耐震改修などを行っても、全く見えないのが一点。

あと、新聞報道であった基本設計の文化庁の補助金だが、いつ文化庁に申請を出したのか？私の聞いている情報では、そもそも文化センターの概算が令和3年に議会で示されて以来、今年の6月の議会までで1回も概算についてのフォローの説明がなかったと議員から聞いている。それで唐突に6月になって、補助金を通りましたから…と議会に出されても、議員だってよくわからないうちに賛成はできないと思う。先に説明していただいた、これまでの経過の中にそういった根本的な動きをやるということが私にはよく見えなかった。

【企画部長】

まずは防災についてお答えすると、避難所だが、耐震化されていないので、地震の際は使えない状況。ただ、雨のときは、避難できるので、雨の際は避難所として使っていく。今回の耐震改修によって、電気系統の改修も入れていき、一部躯体をきちっと改修するので、地震と雨、全て使える防災の拠点という形にする。

そうってから、備蓄品や発電状況などの電気系統に手を入れる時に検討するので、防災拠点として希望や要望などがあれば、ご意見として頂戴したい。

【教育次長】

文化庁からの補助金を受けるが、令和4年10月末に県から照会があり、令和5年に何とか進めたいということで手を挙げて、年が明けて令和5年1月11日、令和5年度の今年度の補助金の内示をいただいた。令和5年1月11日の時点で当初予算に盛ることは可能だったが、4月の統一地方選挙があったため、大きなお金をかける事業については、新しい市長になったところで上程するというのが、これまでの諏訪市のルールになっていたため、6月議会に挙げさせていただいた。

直近で申し上げると、令和5年3月議会、令和4年度最後の議会、ある議員の方から諏訪市のまちづくりということで駅周辺の3事業についてご質問をいただいていた。教育委員会また企画とも、先ほど皆様方にご説明したような内容を回答させていただいた。

令和5年3月議会と、市長選の後の6月議会、近づいているため、6月にどうするとは言えないところなので、内部的には3月までに検討してきたことも議会の皆様にご説明をしたという経過があります。令和5年3月、その前の令和3年9月にもご質問を頂戴しているが、直近で申し上げますと令和5年の3月の議会という事になります。

【教育長】

少し補足をさせてください。8ページを見ていただくと、平成28年度から検討してきており、例えば令和2年度の保存活用計画を策定しています。保存活用計画の策定の際に28億円という試算が出たわけですが、その後どうするか検討します。つまり、28億円と出たからといって、全て市で全部負担してやっていくのは、非常に難しくなるので、出来る限り補助金を取ってこようという検討の中で進めています。

この補助金について少し補足すれば、補助金というのはたとえば要綱を満たせば、補助申請すればもらえるという仕組みではありません。つまり、国からの理解を得て、あるタイミングで国から補助しましょうということで、交付あるいは内示されるかいつ来るかわからない状況になります。

そのため、全国で何をしているかといいますと、補助金があって進めるのか、あるいは補助金を待たずに、単費でやって、そして運よく内示がとれたら財源として利用する、というような理解をしてやっているのが現状になります。今回はこのタイミングで文科省の補助金が出てきた、それから国交省の補助金を取れるタイミングも重なってきた、ということになります。ご指摘のように途中途中でそうした経過を説明するということがあります、実際に取れるかどうか分からないものをどう説明するかという難しさもあるということもご理解いただきたい。

【発言者】

質問を一つお願いしたい。20 ページの 3 事業実施した場合で試算したもの。財政見通について心配している人が多いと思う。文化センターの計画もあるが、他の二つの事業が全て終わる年度など、そこは試算されていると思うが、その計画はどうなっているのか。他の大型の事業がどうなっているのか。

【企画部長】

まず、駅の西口の事業について、令和 6 年から 7 年と基本構想を作る。その後、整備計画を作り、実際の工事が始まるのは令和 11 年くらいからかと思えます。

イベント広場については、令和 5 年度から地質関係の調査を行い、建屋の解体を行っていきます。それと並行して整備方針を作り、その後、民間活用できないかなども検討して、おおむね令和 10 年くらいからになります。今回の試算でいろいろ議論したが、大型事業というものはいろいろあるが、計画できていないものもあり、それを入れるのは難しく、この 3 事業があくまでどういう影響があるのか、財政にどういう影響を与えるのか、その結果という観点で試算したということになります。

【発言者】

18 ページの改修後のビジョンについて、文化芸術に詳しい方もいる中、素人の私がいうのも厚かましいが、事業展開について、いろいろ書かれているが、文化芸術の企画や運営などを行政が行うのは難しいものがあるのではないかと。詳しくないが、茅野市民館などは、別の組織で行っていて、サポートのような団体もいる。そういった担い手はどう考えているのか。

【教育次長】

先ほど説明させていただいたとおり、まだ我々の素案の段階です。今お話しいただいたようなことも意見交換しながら考えていきたいと思っております。残念ながら、文化センターは、事務職員一人で回しているのが現状です。岡谷茅野は人材が豊富で、専門のスタッフを抱えています。その代わりに運営経費として 1 億 7000 万から 8000 万かかるということも一方であります。このビジョンを実現するために、そういった人材確保が必要であるという風に考えています。

【発言者】

一概には言えないが、諏訪市の中で文化芸術の位置づけは決して高くないと思っている。専門のスタッフを置いていないというのもあるし、情報公開にしても、文化センターは何を何月何日にするなど、新聞などを見ても全くわからないこともあるので、検討してほしい。

【教育次長】

18 ページに、情報発信力の強化も書いているので、積極的に発信していけるよう考えていき、実現していきたい。

【発言者】

先ほどの説明だと、大規模改修をして、耐用年数は 20 年から 30 年という話を伺った。それだと、30 億円のお金を投資して、20 年でパーになるような感じになる。毎年 1 億円の減価償却。こういふことを考えると、改修ではなく、建替えという考えもあるのではないか。

【教育次長】

国の登録有形文化財に指定されており、文化財的な価値を保存しつつ、発信をして、できる限り使っていきたいというのが考え方となっています。したがって、28 億円かけさせていただいて、今後 20 年 30 年使っていくという方向で今は考えています。

■改修に関する意見

【発言者】

今後もお金がかかってくるということか？そういうことがよくわからない。随分お金をかけてきたし、これからもかかる。中までひびが入ってきている。そこが間違いなく現状は保存できるという。その上で、有効活用して、雨漏りが無いよう。60 年前は結構な前で、設備とかそういう問題もあり、工事の方法などいろいろあると思うが、そういうことも含めて、これからお金をかけても安全だよということであれば、その辺も加味して検討していただきたい。

【発言者】

私はこの文化センターの改修に大賛成。なぜかという、我が家もそうだが、今は修理しない限り、余計壊れてすぐにボロボロ。私がよぼよぼのおじいちゃんになったとき、子どもたちから、おじいちゃんたちが反対したから文化センターがボロボロで使えなくなってしまうなんてことは言われたくない。ここで改修して末永く使っていけるように。これだけ文化的なセンターなのでぜひこの計画を進めてほしい。

【発言者】

文化センターを市が買い取ってから非常に活用されてきた施設だと理解している。当時、他の市町村にはこの規模の大きな会議などもできる会場はなく、宿泊施設も近く活用されてきたというふうに認識している。私も個人的な話をすると、毎年総会を行ったり、そういう場面もあって、非常に活用させてもらってきた。今度も文化センターに必要な手を加え、改修を加え、後世に引き継いでいければと思う。

先ほどから話を聞いていると、ここで改修にお金をかけると、あとは使わなくていいのかなど心配されると思う。私自身の家もそうだが、建て替えてもまた必要なランニングコストをかけながらでないといと利用できない。規模が大きいので、非常に心配になる。

我々の子どもや孫に大きな借金を負わせる結果になるのではという心配をしている。

指導者やプロがいろんな角度で検討しながら、指導を受けながらだと思っているが、今回、議会と行政とでいろいろ進めているというところを非常に心強く感じている。広場の関係の維持なども、自身が詳細までいえないかと思うので、資材やエネルギー人件費など高騰して先が心配なので、必要な説明は丁寧にさせていただきながら、粛々と進めていただけたら。私の意見でございます。以上です。

【発言者】

重要なものなのでみんな心配している。文化センターを直すのに、令和3年3月に資料が出てから、もう2年以上になる。何をやるにも遅い。補助金を1年か2年かけて、この文化庁の700万、800万程度の補助金をもらうために2年かかったというような話だが、プロジェクトの情報公開をして、何かお金を出すことがあれば、そこがちゃんと成果をあげたかどうか。最終報告書をちゃんと査定する能力があるのか、相手に査定するだけの仕事をさせるのが怖いように見える。一つのプロジェクトに毎年300万円だしている。そういうのを少しよく査定すれば、800万くらいとりあえずだせるのでは。そういうのと補助金と並行して両方進めていかないと、時間ばかり経ってしまう。何年か経ってこういう調整をやっているのも、もっとスピード感と、査定をしっかりとやって、予算も今は概算だが、それを詳細設計にした時、業者にやってもらうと思うが、それが本当に正しいかどうか、我々にはわかりづらいが、それを見る目、査定力がないと、このお金はどんどん上がってきってしまう。2年位で3億円ほどあがっている。その差をあわせるためには、事業を削ることになってしまう。査定を見る力を勉強しなければならないと思う。報告書が、きちんとしたものなのか。他の支出についても、そこが怖い。

【発言者】

二回目の発言をお許し下さい。私は 20 代のころから地元の美術団体に属して、半世紀ほど経つ。文化センターは大いに利用させてもらっている。理由は、駐車場が広い。6 市町村の中で真中にある。会議等に広く使える施設。市職員の対応が非常に優しく、ありがたい。1 年前から予約ができる。ただ、逆を言えばそれだけ活用されていないということかとも思う。本日の午後も、1 階の会議室で研修を行った。1 週間前には、ここで高校生中学生も少し入って三つの講習会を行った。そういった形でこの利用をさせてもらっている立場から言うと、やはりエレベーターがないというのは致命的。通常使う上での利便性を上げるということは、やはり早くやってほしい。文化センターの設計者と緞帳をいまだに発信している。この魅力を感じる人は、私の世代。北澤工業を知っている人。是非これからの時代を担う若者がここにきたくなる魅力を発信できるように。この施設を大きく二つに分けて、利便性があるところは比較的早くやってほしい、設計者の特徴も、どのように発信するのか十分検討してもらえれば。美術団体に所属して活動する立場から意見を申し上げたいと思う。以上です。

【発言者】

いろいろ関係する中でのことなので、自分の思いを伝えるばかりではいけないと思うが、さきほど 8 月に結論を出すそうだが、進むのが少し早いと思っている。市長の懇談会にも出席したが、物事が正しく伝わるというのは、計画土台がしっかりしていること、伝える人がしっかりしていること、聴く人がしっかりしていること、この三者関係がしっかりしていることが必要。こんな計画が持ち上がり、いやそれはまずい、そんな印象を持っている。今回の事は、市側も賛成する人も反対した議員も一般市民も全てがダメージを受けたと思う。諏訪市を分断してしまうような行政の進め方はやめてもらいたい。有識者の意見を聞いた、関係者の意見を聞いた、その中に市民が入っていない。その中で計画を確立した。それが原因だと思う。今日副市長から、こういう機会をさらに設ける、市民の意見を聞くという、そこが最大の原因だったと思う。賛成した議員のダメージは大きいと思う。市長は説明が不足していたという、手続きが十分でなかった。以上です。

【発言者】

提案があります。今後、こういった機会を設ける場合は、村部の人間の意見も聞きやすいようにしてほしい。今後の施設の有り方、一部の人が決めるだけでなく、全体で決めていくように。広域的な考え方も必要だとも思う。そういったあたりをもう一度考えてほしい。

【発言者】

小さくてもよいので音響の良いホールを作ってほしい。文化センター改修にあたってはホールの音響の改善も検討いただきたい。音楽・芸術文化の団体・企画を交えた計画のもと進めていただきたい。

【発言者】

施設はリニューアルの度に費用が掛かる。この施設を残していくとして諏訪市が大丈夫なのか非常に心配。すわかランド、原田泰治美術館など他所管施設の維持費もかかる。その中で文化センターに35億かかる。国からの予算はどれほどなのか。そうやって残したときに、子どもたちの世代ではどうなるか。若い人たちはこの件に関心がない。他の事業にその費用を使ったほうがよい。なぜ焦ってすすめるのか。時間がかかっても説明したらよい。実施するという判断に市長・副市長が責任をとれるのか。市民にもっとわかるように説明していただきたい。

【発言者】

要望を出すときりがない。安心安全な都市に向けて議論し、子どもたちの世代に荷物を背負わせないようしていただきたい。

【発言者】

子育てサークルや親の会を実施した。小・中学生の親は学校の統廃合などについて問い合わせられるが、文化センター改修については何も問われない。こちらから聞いてみると知らないという。文化センターの動きについて若い人達が関わっておらず、関心・愛着がある方が少ないのでは。若い人を巻き込む工夫が無いと、残しても利用されない。

【発言者】

議会でなぜ否決されたかを考えていただきたい。自分の意見を代弁してもらうために市議会議員や県議員に投票し、任せている。市のお金の使い方は一般市民にはわかりにくいところがある。そこを理解しているのが市議会議員であると思っているので、その判断・意見を重視してほしい。